



『里ガイドセミナー』 第2回 開催報告！

開催日：平成26年10月2日 木曜日 第1回 13:30～

講師：東川 隆太郎氏 NPO法人かごしま探検の会代表

第3回目『屋久島の近世から現代』

江戸時代から現代までを学びました。屋久島に縁がある人物と言えば、【泊如竹】【シドッチ】
 泊如竹は、聖人と呼ばれ修業を積まれた得のある方として、各地で仕事をこなされてきました。
 本能寺の編後、お寺修復の為に京都に呼ばれ、屋久杉の平板が使用されていたとも言われています。
 如竹は、沖縄に遣われていた事もあり、首里城に屋久杉が使用されており、泊家の家紋は琉球王国の家紋と似ているようです。3年遣え、島津光久が如竹の存在を知り、琉球から島津家に引き寄せ、その後、遣えています。1665年5月25日。86歳で没されています。
 シドッチは、種子島に寄港する予定が間違っって屋久島に来島してしまい、捕まり江戸に護送され新井白石が担当していたそうです。世に出てはいませんが、新井家からはシドッチについて本が見つかっています。現代に至り、屋久島の産業は、屋久杉と芋。保存が効かないため、吊るし芋は美味しかったそうです。郷土史掲載意外にも沢山の面白い時代背景を教えて頂きました。

ー受講生の声ー

○泊如竹さんの話が面白かった（50代・女性）

○飛魚がその昔、「毒魚」と言われていたのが驚き。シドッチの話も大変興味深かった。（60代・男性）

○泊如竹について、さらに知りたくなった。首里城の屋久杉使用箇所を見てみたい。（40代・男性）

その他、多数ご意見・ご感想を頂き、ありがとうございました。